

浅海域の生態系（2）：植物プランクトンを中心に

2024年度は浅海域の物質循環について改めて見直す機会としています。第3回 RACESセミナーでは、兵庫県立農林水産技術総合センターから西川哲也上席研究員をお招きして、播磨灘における植物プランクトンと周辺生態系への影響について、また、国立環境研究所の越川 海 室長をお招きして、植物プランクトンの培養実験研究について話題提供を頂きます。気軽にご質問いただける機会ですので、興味・関心をお持ちの方は、ぜひご参加くださいますようお願いいたします。

- テーマ 浅海域の生態系（2）：植物プランクトンを中心に
 - 主催 一般社団法人 生態系工学研究会（RACES）
環境研究総合推進費戦略プロジェクト S-23-3
 - 日時 2024年12月21日（土）14:00～16:50
 - 場所 大阪公立大学 I-site なんば 2F C3
(大阪市浪速区敷津東2丁目1番41号 南海なんば第1ビル2階)
Zoomによるオンラインのハイブリッド形式
 - 申込 下記の登録フォームにてお申し込みください。 申込QRコード→
<https://forms.office.com/r/bx1chwZ5ad>
 - お問合せ 生態系工学研究会 事務局 e-mail: office@races.jp



14:00~14:05 趣旨說明

14:05~15:15 講演「植物プランクトン増殖モデルの改良に向けた古くて少し新しい培養実験研究」

越川 海様 (国立環境研究所地域環境保全領域 海域環境研究室長)

【講演要旨】瀬戸内海を代表する植物プランクトンの培養により、窒素、光、水温に対する増殖特性を調べてきた。多頻度培地交換型半連續培養というアプローチにより、窒素制限に関する新たな知見が得られたので紹介する。また水温と光の組み合わせが植物プランクトンの種間競争に及ぼす影響について培養実験とモデルを組み合わせた検討結果についても併せて紹介したい。

15:25～16:35 講演 「瀬戸内海における海洋環境の変動に対するプランクトンの応答」

西川 哲也 様（兵庫県立農林水産技術総合センター 水産技術センター上席研究員）

【講演要旨】播磨灘における長年の海洋観測と室内での培養実験の結果から、海洋環境の変動に對して植物プランクトン群集がどのような応答を示してきたのか、養殖海苔に色落ち被害を引き起こす珪藻などを中心に紹介する。また 2000 年代以降、貧栄養化が指摘されるようになった瀬戸内海において、イカナゴやカタクチイワシの餌生物である動物プランクトン（カイアシ類）に関する、最新の調査結果を併せて紹介する。

16:35～16:50 ディスカッション



【I-siteなんば 会場案内】

- ・南海電鉄ご利用の場合
 - 南海本線 「なんば」駅 中央出口下車南へ約 800m、徒歩約 12 分
 - 南海高野線 「今宮戎」駅 下車北へ約 420m 徒歩約 6 分
 - ・大阪メトロご利用の場合
 - 御堂筋線 「なんば」駅 5 号出口下車南へ 1000m、徒歩約 15 分
 - 御堂筋線・四つ橋線 「大国町」駅 1 番出口下車東へ約 450m、徒歩約 7 分
 - 堺筋線 「恵美須町」駅 1-B 出口下車西へ約 450m、徒歩約 7 分
(ご注意)
建物北側の大学専用入口からお入りください。本施設には、駐車場・駐輪場はございません。公共交通機関もしくは周辺のコインパーキングをご利用ください。
URL : <https://www.omy.ac.jp/isite/access/>